

GIA 2020 2次審査進出者（エントリー順・敬称略）		
氏 名	所 属	プラン・事業タイトル
ビジネスプラン部門／高校生の部		
安達 由那 入沢 美月	利根実業2年・2年	廃棄されるソバ殻を利用してアラゲキクラゲを栽培する
窪塚 朱音	桐生商業3年	密集率が一目で分かる「見える密」
中里 奎太	利根商業3年	地元の人達で作り上げる！空き家削減と地域活性化を図る宿泊施設
金子 茉桜	高経附1年	お家で釣りぼり～釣れたお魚届けます～
田村 柚貴	高経附1年	心臓発作による事故の防止
本多 舞南	利根商業3年	廃棄食は非常食 ～食品ロス削減で、地域に貢献したい～
吉田 尚央 真庭 啓一郎	沼田2年・2年	VAL(バル)VRアクティブラーニングチャットサイト
増田 靖大 増田 慎大	高崎2年・本庄東2年	仮想商店街～新たな商店街の形～
吉田 智崇 立見 亮樹	前橋商業3年・3年	ウーバーフード
石川 博基 茂木 日向子	市立太田3年・3年	学生が育てる学用品オンラインリサイクル屋さん SC-P <ス Copp>
小林 星愛 古口 ひかり	大泉3年・2年	農業アプリHANACOの開発 ～ドローンで農業革新～
永島 寛也	文星芸大附3年	A I の力で SNS 犯罪から学生をプロテクト～フィルタリングから見守るという新しい形へ～
近藤 昇大	県立前橋2年	人間と動物とが共生するための環境整備事業
潮 咲衣 浜野 彩香	中央中等2年・2年	就農、自立に向け、各々の状況に合わせたサポートの提供
ビジネスプラン部門／大学生・専門学校生の部		
白井 大稀	中央農業大学校2年	いつでも来られる農業体験～地域連携農業発展事業～
林 真人	中央農業大学校2年	廃棄植物を用いた、種子や苗の復活。そして販売。
須藤 凜太郎	法政大2年	新感覚ノーゼンダーコスメツール～ Make Shot ～
田中 ひなた	東京女子大2年	集中力が上がる！健康偏差値管理アプリ[schoooooo]
樋口 未悠	早稲田大3年	定額制であなた専属のスタイリストを
吉田 平	関東学院大4年	好きな場所で上げられる低料金結婚式「婚PASS」
山田 武蔵	共愛学園前橋国際大3年	ポスト・コロナの新しい学生生活のスタンダード「JOB Agent」
高橋 史好	慶応大1年	TUKTUKing ～群馬を救うインドの三輪タクシー～
ビジネスプラン部門／一般の部		
大津留 亮太	コスモス	毎日の介護をもっと楽に。オムツ検知 オムツLOOPER
北沢 正人	合同会社柔道整備IM	大人用一体型紙パンツ及び装着パッドの商品化
小池 彩乃	公立富岡総合病院	心不全サポートアプリ「COCOん」～まごころアプリを処方します～
小池 秀和	群馬大学医学部附属病院	食品の機能性を証明！自家製健康食品「アンチガン」で元気に！！
星野 麻実	LocalSharingLab	いい関係がつながる、ものづくり【刺繍プラットフォーム『SISYU』】
石黒 弥千代	MANABO ASOBO	わくわくプログラム教室for障害児「MANABO ASOBO」
清水 大輔	群馬SAKETSUGU	群馬の地酒コラボの「逸品サンプルセット」で人と想いをつなぐ
柴田 康博	群馬大学	男性妊孕能評価サービスの展開
スタートアップ部門		
吉沢 洋紀	北群馬甲冑工房	ピンチをチャンスに！戦国マスクで歴史祭り復興作戦！！
長壁 総一郎	Licca	森のアップサイクルに根差した精油でみなかみ町をアップデート
渡部 嘉之	オーツェイド	独自開発セラミックツイータ搭載ハイレゾイヤホンの開発と事業化
茂木 三枝	ウイル	D I Y 活用による賃貸空き家再生事業
佐藤 祥平	ワールドネクスト	多文化共生社会エッセンシャルプラットフォーム「グローバトン」
吉田 大祐	NPO法人ソーシャルグッド	運動嫌い・苦手な子に特化した運動教室「うごキッズ」の全国展開
宮入 盛豪	Fine Feathers	不登校の子でもつい行きたくなってしまう塾
小山 将	一般社団法人健康労働支援協会	ノーリフティングケアで介護天国群馬へ
イノベーション部門		
沢浦 彰治	グリーンリーフ	糖尿病予備群に朗報、血糖値を「とろみ蒟蒻入り有機お粥」で抑える
市村 均光	NPO法人ターサ・エデュケーション	子どものアンフェアをぶっ壊す。社会でみんなで子どもを育てる“協育”の実現
斎藤 胡依	ダイコー	そば業界の垣根を超える「SOBA」革命
野村 雅弘	北関スクリーン	看板事故、ゼロへ！～看板点検. c o m(ドットコム)～
遠藤 春奈	MightyKonjac	Enjoy こんにゃくwith コロナ
小淵 豊太郎	小淵警備保障	立ち仕事疲労軽減プロジェクト～産学連携で足トレWORKの開発～

群馬イノベーションアワード

44組2次審査へ

起業家発掘プロジェクト「群馬イノベーションアワード（GIA）2020」（上毛新聞社主催、田中仁財団共催）の事務局は8日、書類選考による1次審査を

計44組が通過したと発表した。24日前橋市の同社で開かれる2次プレゼンテーション審査に進む。新型コロナウイルスの感染が広がる社会情勢を反映したビジネスア

アイデアをはじめ、介護や健康、環境、情報技術（IT）など幅広いテーマのプランや事業実例が残った。

部門別では、起業や第2創業を目指す「ビジネ

スプラン部門」のうち、高校生の部が14組、大学生・専門学校生の部が8組、一般の部が8組だった。創業5年未満の起業家を対象とした「スタートアップ部門」は8

組、創業5年以上の事業者が対象の「イノベーション部門」は6組が選ばれた。

今年で8回目。過去最多となる606件のエントリーがあり、プロジェクトを支援する協賛社の金融機関「フィナンシャルサポーター」と実行委員会が審査した。

2次審査は、パワーポイントを使った3分間のプレゼンテーションで競う。実行委員長を務めるジンズホールディングス（同市川原町）の田中仁CEOら実行委員が審査する。

44組から選ばれる各部門・部の原則3組計15組がファイナリストとなり、12月5日に同市のヤマダグリーンドーム前橋で開かれるファイナルステージで公開最終審査に臨む。